



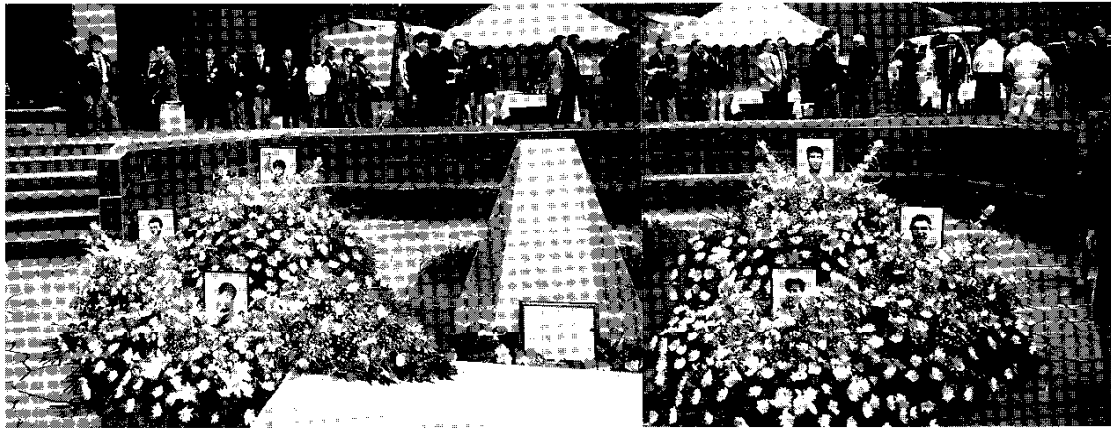
題字 小沢信三郎 会長

# 航 跡

早稲田ヨットクラブ会報

平成5年2月発行

発行者・事務局長 橘 滋夫  
編集・広報室 米田晴二  
石田晋也



## 早風三十年を偲ぶ

於 三戸浜小島合宿所

92年三戸浜での集いは「早風30年を偲ぶ会」となりました。早稲田ヨットクラブから6人の仲間が早風で初島レースに参加、異常気象下苦闘したか、不幸遭難してから早や30年。

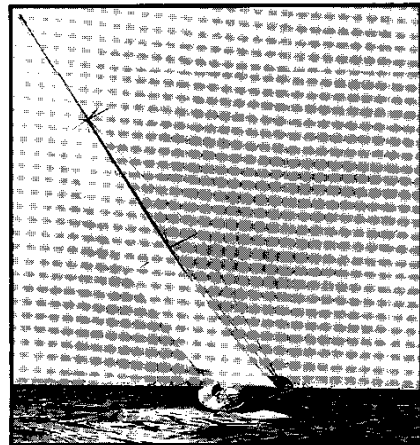
10月3日、集いは実行委員諸氏の努力により盛大に挙行され、参加されたご遺族の方々も大学代表・矢沢常任理事や体育局の皆様方も大変感銘をうけられたとのことでした。

小島合宿所、早風の碑の周囲には沢山の菊の花があふれ、六人の遺影がかざられました。

加えて「快走する早風の写真」(田澤・大津両先輩提供)と「早風の模型」(渡辺晋先輩作品)が展示され、30年以上前の事を鮮やかに思い出させてくれました。

挨拶に立たれた小沢会長の話も、癸生川先輩の言葉も、まるでこの事が昨日の事の様に参加者の耳にひびきました。30年といえば、容易な歳月ではありません、司会してくれたNHKアナウンサー松本OB(昭59卒)の生れた頃のことでしょう。

早風に鍛えられ育てられてきた何人もの人達、その縁から生まれた小島合宿所と稲籠に育まれてきた人達が、六人の友を想い且つ厳粛に反省したのです。



あの事件は、日本のヨットレースのあり方についての論議をまき起こしました。

あれからの30年、日本は東京オリンピック以後あらゆる面で大きな変容とハイテク化が進みました。

しかし、日本からヨットの事故は未だになくなりません。30年前事故の当事者だったわがクラブは自戒と反省を忘れておりません。

ヨットとの取り組み方、後輩の育て方について考える一日を、三戸浜で過したのであります。

そして遺族を代表された小島さんが話された様に私たちは今こうした事を乗り越えて新しい時代に対処することを求められているのです。

実行委員長杉山先輩他、ご協力いただいたOB諸氏、学生諸君に厚く御礼申し上げます。

## ワセダ・ヨットクラブ '92

バブルのはじけた日本経済、アメリカ・ソ連の二極冷戦構造が崩れた世界の中でOB諸兄も夫々ハードなセーリングを続けているとお察しするが、1992年も 早稲田ヨットクラブは元気でした。

3月19日 永楽クラブで総会。参加多数。平成4年卒業の新OB11人が紹介され小沢会長よりWYCハッパ・エンブレムが贈られた。

現役ヨット部を支援しOB相互の親睦をはかる当クラブの定例理事会は、本年も「毎月第3木曜日」「場所はいつでも永楽クラブ」の原則を継承し続けた。

クラブの安定運営の為の会費集金体制は、「自動振込制」の定着促進努力が続けられている。

現在約150人が申し込み実行しております。まだ未加入の方、是非ご協力下さい。

OB名簿が6年振りに新しくなった。特に若いOB諸君にご不便をおかけしていたことをおわびする。出来たけれど人の動きも激しくフォローするのも大変。その後いろいろお叱りや注文が続出した。そこで11月の理事会で急拠、名簿委員会を編成することになった。諸氏の声も反映して 近い将来1年1回改訂体制にもってゆきたい。

関東12大学OB戦(6月13~14日 諏訪湖)

4大学OR戦(9月26~27日 淡輪)

早風30年を偲ぶ会

毎年開催されていた 夏の集い、秋の集いを本年は「早風30年を偲ぶ会」として10月3日 三戸浜・小島合宿所で開催した。実行委員諸氏のご尽力により、大変立派な催しとなった。

実技応援

8月、岩井での一般学生の体育実技は本年も成功であった。現役部員の努力、OB諸氏の応援の賜と石井章夫講師の謝辞。

ヨット部の歌「海は紺青」

新しいヨット部の歌が欲しいということで2年間にわたり専門家のご協力を得て「海は紺青」が出来上がった。皆さんは判らなかつたらうが一番苦労したのは 音譜の印刷だった。ドレミがはっきり判らない人間がやっているのだから作曲家の先生にご迷惑をかけたものだ。テープで耳からきいて、カラオケは上手な人達は沢山いるのだが。

音譜も出来た。次の行事には是非活用して下さい。(音譜必要な方は ナショナル出版 石田OBに)

稲龍のこと

学生のレース日程が過密なこともあって、ヨット部としての稲龍の活動は決して活撥ではありません。夏の実技での学生指導、関東水域各レースでの監視、観戦に使う程度です。

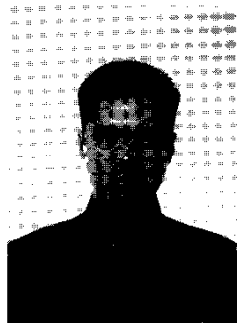
整備状況も正直なところ良くありません。抜本的対策が必要です。金を集めて新艇を…という声もありますが、金をかけることよりも継続的運営システムを作ることが先決ということで今年度は結論を得るに至らず、問題先送りになった。

理事会任期

石井哲理事長、橋渡夫事務局長、佐々木陽一経理を中心とした現理事会の任期二年が経過しました。新しい構成は現在(92年末)未定ですが 皆様のご協力に感謝し新メンバーに大いに期待したい。

92年度ヨット部  
回顧

ヨット部主将  
石井慎二



早かったこの1年間を振り返ってみますと随分と苦しい1年でありました。

前半では見事、去年の借りを返すごとく、早慶戦では勝利を得、目標達成の喜び、勝利の喜びというものを味わう事が出来、また勝利することが自分たちにとっての幸せなのだと感じる事が出来ました。

しかし、秋になり、秋一発目の5大学戦で470とスナイプの実力がちぐはぐになってしまったことに気づきました。スナイプが思った以上に敗退していつてしまうのです。

その後、6大学戦でもスナイプは敗退してしまい、チームに何か暗い雰囲気が出てきてしまいました。そ

のままインカレの予選に入り、470 2位、スナイプ4位で当り前のようには通過していくのですが、決勝では470 9位、スナイプ5位と470は全日本に進出不可能となってしまいました。

470は全日本に行けると思っていたことが慢心となり、このような結果になってしまいました。細かいことを言い出したらきりがありますが、ただ1つ言えることは謙虚さが足りなかつたことだと思います。

今年の全日本(琵琶湖)はスナイプの片クフスになってしまいましたが部員全員で全日本に挑むことが出来ました。結果は9位ということでしたが、これはベストを尽した結果です。このように部員がヨットに励んでいられるのもご支援、ご尽力を頂いている先輩方のおかげだと深く感謝しております。

最後になりましたが、下級生諸君に言います。一番大切なことは自分たちのやっていることに誇りを持つことです。早稲田大学ヨット部にいること、そしてそこでヨットをしていること、それは自分を試す良いチャンスです。自分は早稲田大学ヨット部員であるということに誇りを持って自分に、そして全日本に挑戦していつてほしいと思います。

早稲田に栄光あれ!!

(次項左下に続く)

# アメリカズ・カップに参加のワセダマン

今から140年前、1851年日本にペリーが来航した2年前、イギリス万国博の年に、ロイヤルコック協会がワイト島一周レースを開催した。この時参加した新米国アメリカから出場した「アメリカ号」が獲得した70センチの銀杯。これがアメリカ号のカップということでアメリカズカップである。

以後ずっとアメリカの艇がこの防衛を続け、只一回1983年にオーストラリアが奪取に成功した以外、このカップがアメリカから動くことがない。

日本は今回始めてこれに挑戦。クラブ単位のエントリーで今回はNORC（日本外洋帆走協会）で参加した。実際の推進運営は、ニッポンチャレンジアメリカ杯委員会。会長が山崎達光氏（S32年OB）です。ニッポンチームの本部スタッフとして武村洋一氏（S32）、クルーの一人に芦沢佳津也氏（S61OB）が出場した。

アメリカズカップといえば、ヨットの一つの分野での頂点です。一言でいえば莫大なヒト・モノ・カネの勝負と言われる。ヒトースキッパーを始めとするクルーの力量。モノー新素材やハイテクで武装した艇を建造する技

術力。カネーチャレンジの為にそれらを支える資金力。これらを支え続けなければレースに参加すらできない。

流体力学の専門家に、原子力潜水艦より難しいと言わしめたこの設計。石川島播磨重工業、三井造船、東大らの協力も得て重ねた水槽実験。あらゆる技術の積み重ね。1社1億円のオフィシャルスポンサー30社と、協力企業のカネ・モノ。そして7000人の草ノ根応援団の寄付など…。そして華々しく始った挑戦レースでした。

挑戦艇決定シリーズ（ルイ・ヴィトンカップ・レース）は1月25日から開始され、挑戦権をイタリアが勝ちとったのは4月30日。112回のレースの結果でした。ニッポン艇は4月7日の対ニュージーランド戦を最後に準決勝で敗退。カリフォルニア州サンディエゴ沖で、SAYONARAのスピナーカをはらませてチャレンジの幕をひいたのでした。

アメリカズカップ本戦は、4勝1敗でアメリカが防衛したことに既にご承知の通り。6月16日でした。

ニッポンチャレンジを声援しようと、早稲田ヨットクラブ応援団が2月14日サンディエゴに乗り込んだ。

(前頁下段より)

戦績	470	スナイプ	総合
4/19～5/3 関東インカレ	5位	10位	6位
5/9～5/10 東京六大学	—中止—		
5/23～5/24 同志社定期戦	負	負	負
6/6～6/7 早慶戦	負	勝	勝
9/12～9/13 五大学定期戦	3位	5位	4位
9/19～9/20 東京六大学	2位	6位	4位
9/27～10/18 関東インカレ	9位	5位	6位
10/29～11/3 全日本インカレ	—9位—		

### (現役の人数)

4年生6人、3年生3人、2年生11人に新入生を加えた30人以内の編成。

### (出身校)

4年 早実2人、学院3人、鎌倉学院  
3年 天王寺、早実、気仙沼  
2年 早実、宮古、港北、湘南、学院2人  
城北、西南学院、相模原2人、斑鳩

### (関東水域の状況)

日大と明治が二強、これに関東学院、慶応、早稲田が追随という形、クラスにより法政、立教、東大、中央、学習院などがからむ。

### (全日本の状況)

琵琶湖で地元の同志社が両クラスを制した。470では初日より独走してそのまま優勝、スナイプは立命のリードを同志社が最後に抜き去った。この両校に、日大と関西学院、福岡大学がBクラスを形成、その他は平凡な結果となった。

### (印象)

メンバーの顔ぶれは、他に負けない。もっと自信をもってやれよ。と或るOB。

### 《学生日程》

2月 9日(火)～2月13日(土)  
\*2月11日(休)合宿所開き AM10:00～  
2月16日(火)～2月21日(日)  
2月24日(休)～3月1日(月)  
3月 4日(休)～3月9日(火)  
\*3月10日(休)壮行会 PM6:00～  
3月13日(土)～3月16日(火)  
3月18日(休)～3月22日(月)  
3月25日(休)～3月29日(月)

### 《壮行会》

日時：3月10日(休)  
PM6:00～記念撮影  
於 人偶会館  
PM6:30～壮行会  
於 大隅通り「芳葉」  
03-3203-3464

部員一同、来る今春の関東学生ヨット選手権におきましては、470級・スナイプ級の両クラス優勝を目指し、全力を尽くす所存ですので、今後とも御指導御鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

敬具

早稲田大学ヨット部 主将 石井 慎二  
尚、お気付きの点等がございましたら、下記まで御連絡いただければ幸いです。

早稲田大学ヨット部小島合宿所  
三浦市初声町三戸924 ☎0468-88-0262



いずれ劣らぬヨット狂たち。往復の太平洋上を飲み続けJALのスキューアーズに「もうこれありません」と言わしめた杉山氏。旧婚旅行を兼ねた鈴木賢夫婦、留学中の子息も現地合流した滝氏オヤコ。息子さんがニッポンチームのキャンプで手伝っている下田ボートサービスの伊藤氏。ヨットもしたいゴルフもという小島明氏、松島氏。応援艇で「イヨー日本一!! ぢゃなかつた世界一!!」と絶叫した千葉栄作さん。栗原秀和氏はニッポン艇のセールを提供している帝人マン。応援事務局新沢はるみさん、米田はクルー替りの娘づれ。

そして現地では蒲郡市からの応援団で山内憲治氏とも合流した。蒲郡勢は揃いのニッポンチャレンジはっぴで人目をひきました。現役学生部員2人が卒業旅行で観戦にきていたのともありました。3月に入ってから舟岡夫妻も旧婚旅行でやってきてニッポンキャンプ入りしてサポート艇に乗ったのでした。

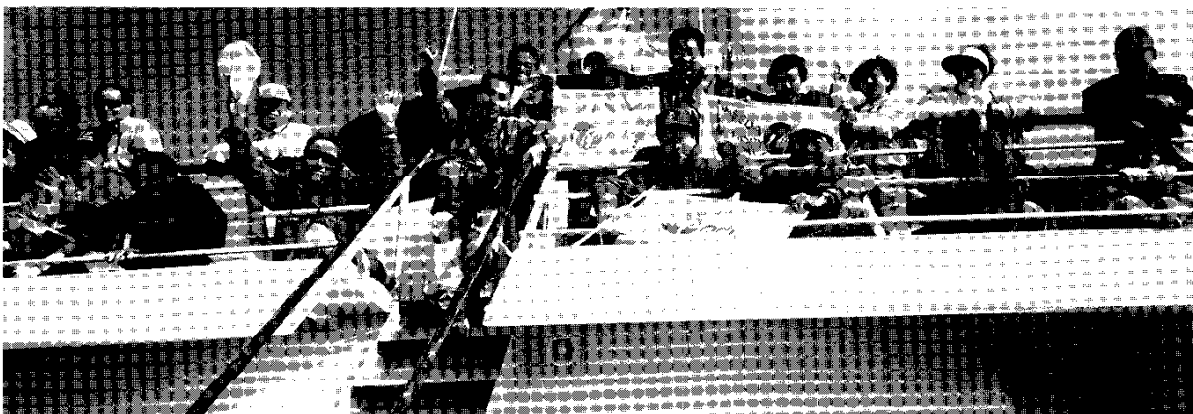
日本で連日夜11時、TBSが毎日の結果をリポートしました。杉山氏が「ウン良くやった良くやったヨ」と断言するシーンが何度も流されました。

アメリカスカップに早稲田マンが参加してそれを応援に行けた。これは二子山親方の言葉と同じ〈夢のまた夢〉でした。

帰国したニッポンチャレンジ・ドックイン・パーティでは、早稲田サンディエゴ応援団が再度集合し、クルー達と交歓、慰労した。4月22日です。山崎会長は「今回の経験を生かして次回再挑戦」と宣言した。

6月17日、八丁堀の吉田で山崎・武村・芹沢3氏を囲んで慰労会。30人でアメリカスカップを語った。山崎会長いわく、皆さんが想像されている何倍も嬉しかったと応援遠征を評価。武村さん、芹沢君は夫々苦勞と勉強の成果を語った。

そして今 1993年 新しいニッポンチームが蒲郡キャンプで訓練を開始している。1995年の挑戦に向けて!!



# 全日本A級ディングー選手権大会 観戦記

53年卒 渡辺 亨

バルセロナを数日後にひかえた7月26日、三戸浜沖で第6回全日本A級ディングー選手権大会が開催された。

前夜祭は7月25日PM6:00 三戸浜の民宿「やまこ荘」で盛大に行なわれた。

早稲田を始め日大、中央、明治、立教そして特別参加としてNHKヨットチームの総勢56名のA級マンが集まり大宴会となった。

開始の6:00には既に各校とも完ペキにでき上っており、後は、皆様の想像通りの展開に入っていた。

おいっ！スー公だの、おう！マー公だのとのバ声飛びかう中、気狂いの宴は明け方まで続くのだった。

彼らに明日はあるのだろうか？

ともかく若手OBの運営チームは早く寝なくてはと、ふとん部屋に逃げ込むのに勢一杯。

当日、南の風3~5m。絶好のコンディションである。ただ、殆んどが立つのがやつの二日酔い！！

当番校であるワセダの小島合宿所にて、AM10:00開会式が行なわれ、6チーム・56名を代表し石井章夫監督による力強い宣誓の後、オールドヨットマン達はさっそう？と三戸浜沖レース海面へと向った。

2レースを終えた時点でだれもが早稲田の勝利を確信した。武藤・北島組が2レースともダントツをひいたからだった。

流石、全日本優勝メンバーである、他校を圧倒した。

3レース日、早稲田は石井監督が続投を指示した。しかし廻りからの声に押しされついに、自らティラーをにぎることになった。

クルーは千葉葉作OB、4レース目はスキッパーを交替、共に5位に終わった。

5レース目は、舟岡・諏訪組で同じく5位、この時点で優勝はほぼ絶望的になった。

最終6レース目は、シングルハンドで行なわれ、エース武藤の出場により2位となったが時すでに遅し、総合

2位で今年のレースは無事終了した。

思いつきで始まった当大会も第6回を数え、年々参加者もふえ盛大になってきている。

艇と人どちらが先にイクかなと陰口をたたかれながらも、ガンバッテいるのだ。これからも長く続くことを祈るのみである。

最後に某若手OBのつぶやきを記して筆をおくことにする。

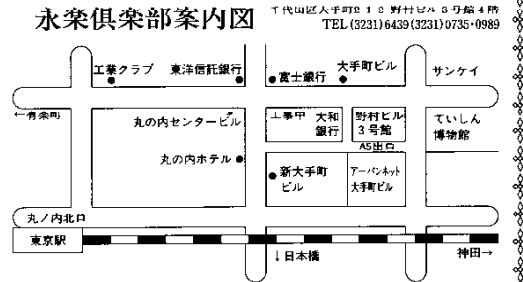
「21世紀の日本社会がかかえるであろう問題をカイマ見るようだったと」——若干名による若手OBの運営(アテンド)を揶揄して。

## 平成5年度OB総会のお知らせ!!

来る3月18日(木)午後6時より、大手町の永楽倶楽部に於いてOB総会を行います。万障お繰り合わせの上、多数の皆様のご出席をお待ちしております。

尚、出欠席のご案内通知は事務局より後日皆様にお送り致します。

## 永楽倶楽部案内図



## [安住杯] 全日本A級ディングー選手権大会 (兼世界選手権大会?) 結果報告

(平成4年7月26日：三戸浜沖)

チーム名	1R	順位	2R	順位	3R	順位	4R	順位	5R	順位	6R	順位	総合得点	順位
早稲田大学	武藤・北島	1	武藤・北島	1	石井・千葉	5	千葉・石井	5	舟岡・諏訪	5	武藤	2	17 6/4	②
日本大学	幸田・高井	3	吉田・高井	3	川井・若田部	2	石川・若田部	3	高井・若田部	4	吉田正雄	6(沈)	21	④
中央大学	入江・木越	2	入江・木越	6	木越・入江	3	幸田・一条	2	幸田・一条	3	木越	4	20	③
明治大学	大須賀・立崎	4	古谷・石井	2	下里・古賀	1	大須賀・古谷	1	宇野・広瀬	6	大須賀	3	15 6/4	①
立教大学	魚住・津田	6	小泉・昇	5	荒井・神谷	4	府中・庄野	4	遠藤・渡辺	2	田中	1	21 3/4	⑤
NHK	堀川・鈴木	5	堀川	4		6		6		1	堀川	5	26 3/4	⑥

## 12大学OBレース (諏訪湖)

92年6月13日と14日開催。本年で6回目だが今年からクラブ旗も新調して腰を入れて参加、勝ちにゆくことにした。

結果は総合2位。スナイプ年令無差別は矢口・田沢組の快走で優勝。2人の年令100才以上クラスは濱田・斉藤組のふんばりでこれまた優勝した。ミニ・ホッパーは千葉氏の10位、ご苦労様。というわけでした。総合優勝は立教。

参加校、早稲田、慶応、立教、明治、法政、日大、東大、横浜国大、中央、関東学院、商船、横浜市大。関西各校からも参加申込がきている由。

当日参加した各位は、堀江(S16)加藤久(S23)石井章(S28)大塚(S28)安藤(S29)濱田(S30)千葉(S30)斉藤勸(S30)矢口(H元)田沢(H元)の10人でした。

来年はもっと人勢で賑やかに諏訪湖へ行きましょう。



## 4 大学OBレース (大阪・淡輪)

昨91年は台風で流れたので今年も当番は関学さん。

9月26~27日。強風10メートルのきびしいコンディションの為、コースを短くして実施。スナイプ2レース。早稲田は板東OB中心の若手で頑張ってもらった。

慶応、同志社、早稲田、関学の順となる。

当日参加したのは、林(S21)濱田(S30)吉田秀(S36)足立(S36)志智(S39)若松(S40)守屋(S40)渡辺輝(S58)板東夫妻(S59)野原(H3)槐島(H3)11人。

故中沢弘氏夫人と娘さん。中沢氏がいたサントピアマリーナの見える海でレースを観戦された。

尚 93年は早稲田が当番校です。また現役を含む4大学レースをと、関学より提案あり。監督、学生日程検討の上でできれば実施の方向でということになっている。

## 空蟬 WUZSEMI だより NOV'92

—南海放浪 千葉OBより

9月始めにPORT VILAを出て、同じヴァヌアツのサント島で1ヶ月のんびりと渡り鳥。現在同島には日本人が7人居るそうです。ヴァヌアツ一番の大企業ニツチク・ヴァヌアツは500万坪に牛を放牧し日本にも輸出しているそうです。オーナーは早稲田の先輩で自宅で応援歌のテープを聴かされたのにはビックリ。

ローカルの人々からバナナ、パパイヤ、ヤシの実、パンパムース等果物をいっぱいもらってヴァヌアツを離れたのは10月下旬。初めのうちは調子よかったです、赤道直前でストップ。風がぱたりで、又も空蟬のペース約1100マイルを2週間、そしてどうにかミクロネシアの東端KOSRAEにたどりつきました。

ある人の航海記に、マーケサス(フレンチポリネシア)に入港した時、湾に入ってすぐ一陣の風が吹き抜け、ティアレタヒチ(花の名)の香りを運んできた…とありましたが、我々が同じ湾に入り同じ風を受けても何の香りもなく、モノ書きはうまいこと書くなと感心したものです。ところが今回KOSRAE島に近づいた時島から運ばれてきた強いオレンジの香り。我々の鼻もマンザラではないとうれしくなりました。こゝはかつての南洋群島の一つ、小生の年令以上の人は日本名も持っています。

赤道を越えたら何か我々の旅も終りのような感じがします。今朝ラジオをいじっていたら日本からのラジオたんばが聞こえてきました。もう日本が近くなったようです。サンフランシスコに向う時はだんだん聞こえなくなり少々さびしく思いましたが。

我々の予定??では、当地に約1ヶ月。ポナペに同じ位、そしてGUAM、4月に入ったら小笠原向けを考えています、皆さんよろしく。

92.11.17 空蟬、右一 侑子

## 編集後記

92年度も年1回の発行にとどまった。ニュースがないのではなく、シーズン途中で区切りにくかった次第。

今3月には新執行部がスタートするので、新理事長の方針・新しい理事の紹介を中心として早い時期に航跡をお届けしたい。

早稲田ヨットマンの若いOB諸兄の活躍状況、各地方での活動ぶりも相互に紹介したい。また各レースに参加された方は必ず記録(参加者・結果・コンディション・話題など)をご提供下さい。活々した帆走写真も紙面に飾りたい。新執行部には大きく区分した年度別広報委員を決めてもらい、この会報を皆さんの物といたしたい。

新しい年の皆さんのご健康と、特に海でのご活躍を祈ります。

米田晴二